

平成 27 年度 第 2 回 石狩市社会教育委員の会議 議事録

日 時 平成 27 年 10 月 5 日（月） 午後 2 時～3 時 20 分

会 場 石狩市公民館 第 1 研修室

出席者 委員長：木村 純 副委員長：大橋 修作

委 員：相馬 保、石井 量子、山田 治己、小條 智英美、福士 志穂、大黒 利勝、
平 紀子、高橋 美恵子

事務局：生涯学習部次長 東 信也

社会教育課：主査 富川 雅枝

社会教育主事：斉藤 晶（兼社会教育課主査）、西山 隆之（兼社会教育課主任）

傍 聴 無し

会議内容

斉藤社会教育主事：皆さんこんにちは。社会教育課の斉藤です。定刻となりましたので、只今より、平成 27 年度第 2 回石狩市社会教育委員の会議を開催いたします。始めに木村委員長からご挨拶をお願いいたします。

木村委員長：皆さんこんにちは。去る 8 月の 3 日から 5 日、石狩市で、北海道教育大学主管の社会教育主事講習を開催させていただきました。私は主催者と社会教育委員の両方の立場での参加でした。昨年までは恵庭で開催しておりましたが、北海道教育大学の責任者である古村委員が、以前から石狩で開催したいと考えておられて、今回、石狩市で開催することができました。今まで石狩で開催できなかった理由として、宿泊場所が確保できないことがあったのですが、宿泊をとりやめ、札幌から通いで開催いたしました。社会教育委員の皆さんからも、たくさんの方に厚田に来ていただき、ありがとうございました。

さて、あっという間に秋になり、ナナカマドが赤くなっておりますが、お忙しい中お集まりいただきありがとうございます。早速、会議次第に従って会議を進めたいと思います。まずは報告に入りますが、先ほど申し上げた社会教育主事講習の一環として行われたパネルディスカッション「石狩市厚田区の地域づくりと社会教育の課題」について、大橋副委員長からご報告いただきます。よろしくお願いいたします。

大橋副委員長：もう 2 年前になりますが、社会教育委員と学ぶ市民講座の中で、厚田区についてのテーマで開催いたしました。今回参加して、私達が以前に学んできた以上に、地域づくりの取り組みが大変素晴らしいものだと思感しました。また、先日の北海道新聞にて、石狩市の合併 10 年という記事で同じことが取り上げられました。本日、大黒委員が参加されておりますので、実際に関わってきた話をもっと聞きたいと思いますが、地域づくりの中で培われて

きたものは、行政サイドの実績だけではなく、地域住民が積極的に関わってきたことによるものが大きいということが素晴らしいと思います。詳しくは報告書に詳しく載っておりますが、その点を強く感じました。さらに、2018年を目標に、これまで10年間取り組んできた成果として、今後、道の駅総合施設という、さらに新しい地域づくりに取り組まれるということです。厚田区の地域協議会が取り組んでいる内容は、石狩市全体に関わってくる地域づくりであると思いますので、道の駅を通じて、その地域づくりに我々も参加できたら素晴らしいことだと感じました。以上です。

木村委員長：ありがとうございます。私もパネルディスカッションの打ち合わせの中で、一昨年に取り組んだことが、ようやくひとつひとつが繋がって見えてきて、まさに石狩の住民の人たちの地域づくりというものが社会教育そのものであると改めて思いました。10名の社会教育委員の方に参加していただき、大変ありがたく思います。もしかすると、厚田かどうかはわかりませんが、来年も社会教育主事講習をお願いするかもしれませんが、申し入れがあった場合には、改めて皆さんとご相談をしたいと思います。それでは次に、平成27年度石狩管内市町村社会教育委員等研修会について、高橋委員からお願いします。

高橋委員：参加したメンバーは38名で、石狩市からは14名が参加しました。研修の内容は、開会行事、基調講演、施設見学、事例報告、グループディスカッションでした。歓迎のことは徳田昌生教育委員長が、ご挨拶をされました。基調講演では、北海道教育大学釧路校の廣瀬教授が、「これからの社会教育」として講演されました。その中で、文化が大事であり、石狩らしさなど、その地域の特性を出していくことが大事だということでした。また、生涯学習は、しっかり働いて税金を納めてくれる人をいかに創るか、いかに育てるかということも言われていました。社会教育とは、社会の問題を解決するための教育である、と私のメモにはあるのですが、当日配布された文部科学省の資料によると、これからの社会教育行政には、まちづくり部局や福祉部局など、他の行政部局との連携・協働を強めると共に、地域のNPO団体や大学、企業などと連携・協働したネットワーク型行政を推進していくことが求められており、社会教育委員が社会教育主事などと連携しながら、地域の人づくり、絆づくり、そして地域をよりよいものにするため、主体的に活躍されていくことが期待されている、ここが社会教育委員の大切な役割であるということでした。

施設見学では、見学前に宿題が出されました。「俳句のまち～いしかり～」なので、俳句を作るということでした。俳句にはルールがあるのですが、これがなかなか大変でした。初めの見学は「石狩尚古社資料館」で、館主である中島さんの祖父の代からの資料がたくさん展示されていました。その後は、弁天歴史公園と俳句ロード、そして、いしかり砂丘の風資料館を見学し、俳句を考えながら会場まで戻りました。

事例報告では、文化活動を活かしたまちづくりというテーマで、非営利活動法人石狩市文化協会事務局長の棚橋さんの発表がありました。次に、石狩市教育委員会生涯学習部文化財課工藤課長の石狩の食文化についての報告がありました。

グループディスカッションでは、5つのグループに分かれて、グループワークをしました。私はAグループでしたが、同じグループになった江別市の佐藤さんという方がすごい人だと思ったのですが、話を聞くと社会教育委員長でした。

研修会終了後、金大亭での交流会がありました。とても有意義な研修会でした。ありがとうございました。

木村委員長：高橋さんは、今回見学したところは、以前に何回か行かれたことがあるのでしょうか。

高橋委員：尚古社には一回行っていますが、砂丘の風資料館は初めてです。以前は、別な感じの建物で、ビール工房があったと思います。尚古社も、昔と違って、玄関の看板なども、とても資料館らしくなったと思います。

木村委員長：ありがとうございます。私は所用で交流会しか行けませんでした。また今度、本当に鮭の美味しい季節に行きたいですね。

それでは次に議事に入ります。まず、社会教育委員と共に取り組むワークショップについて、私から説明したいと思います。10月2日修正と書いたレジュメが配られています。先程も申し上げましたが、一昨年、厚田のことについて社会教育委員と共に学ぶ講座で取り上げて、さらに今年、社会教育主事講習と共催するような形で、パネルディスカッションに取り組みましたが、それをさらに発展させて、もう少し、厚田の地域の方達の取り組みを応援するような形で、厚田の社会教育の課題を明らかにするような講座なり、学習の場なりを作りたいと考えて取り組んできました。そして、厚田区地域協議会の佐藤会長にも何回かお話をお伺いしました。前回の社会教育委員の会議でもお願いしたように、厚田の地域課題に、ある意味真正面から取り組みたいと提案して、準備してきました。

一つに、厚田区地域協議会の人たちを中心にしながら、行政と一緒に、道の駅を作るという計画を進めております。元々、厚田の地域の人たちは自分達で話し合いをしながらまちづくりを進めていて、その中で道の駅について考えているという点に、国土交通省が注目してモデル的に取り組むことになったのだそうです。このことは地域協議会として一番大きな課題なのですが、それは既に話し合いが進んできているので、私達が今から口を出すことではありません。もう一つ重要な問題は、合併してから10年が過ぎて、おそらく今までは、地域全体が大きく姿を変えることについてはあまり取り組んでこなかったのです。そして今、行政としても地域の人たちと話し合いながら、例えば学校統廃合についても考えなければいけないという状況になってきているのです。少なくとも、厚田については、小中学校はかなり老朽化しているので、厚田の中心になるような学校の設置について考えることになるのではないかと思います。望来小学校や聚富小中学校など、色々な地域の人意見も検討しながら、統廃合を含む方向を考えなければいけません。例えば、もし学校がなくなった場合に、集落のまとまりをどのような形で維持していくのか、廃校後の校舎をどのように活用していくのかなど、色々

な問題が出てきています。これは、ある意味では大変微妙な問題でもあるので、学校統合の問題などは、今まで厚田の人たちが、地域協議会を中心に一体となって取り組んできた地域づくりと同じように進めていけるかどうか、ある意味では分かれ目になっている部分がありますので、そこに外部から意見を言いにくいのが現状です。

そこで、今回の内容は、「厚田を石狩市の宝に 石狩市民が知っておきたい〇〇のこと」というテーマを考えました。例えば、石狩市民が知っておきたい 20 のこと、場合によっては、数字が変わるかもしれませんが、ワークショップをやってはどうかという提案です。会場や現地の都合、バスの確保などを考慮して、時期は 11 月の 20 日か 21 日、現地の方達の要望では夕方以降が望ましいということです。時間は 2 時間半ぐらい必要ですので、バスの移動時間を想定して、仮に 5 時半から 8 時とすると、夕食は別として、バスが石狩を 4 時半ぐらいに出発して、5 時半開始、8 時終了、石狩に 9 時到着という予定かと思いますが、いかがでしょうか。

厚田の地域づくりと住民の学びについて、私達は一昨年と今年と二回にわたり学んできました。このワークショップでは自然、歴史、産業、文化、地域づくりなど、厚田の地域が持つ資源や発展可能性などに関わる厚田の方達の活動の成果を石狩の市民全体が共有し、厚田から石狩市民全体として学ぶべきこと、厚田の地域づくりにおける社会教育の課題などについて一緒に考えたいと思います。そして、厚田の中にどのような宝物があるかということ、厚田の人たちだけが知るのではなく、石狩市民全体が知るという場所にしたいと考えております。宝物を知るといふ部分の取り組みのことを、地元学と呼んでおり、色々なところで取り組まれておりますが、昨年、松田レポートというものが公表されて、人口一万人未満の地域は、いわゆる消滅自治体だと言われており、まさに厚田区は 2 千人規模の地域です。石狩市として合併しているので単純に該当するとは言えませんが、そういった地域のコミュニティを残していくためにも地元学というのは必要とされており、地元学を学ぶということは地域を磨くことだと言っている人もおります。「世界」という岩波書店から出ている雑誌に、小田切さんという明治大学の先生の話が載っております。限界集落などの考え方に批判的で、無くなってしまう地域だと捉える考えに反対している方でして、むしろ今はかつてのように農村を離れて都に向かうということではなく、若い人たちの間には田舎、地方の暮らしに魅力を感じて、戻ってそこで生きていこうという人たちが増えているのですが、若者に魅力のある地域を作るためには、住民やコミュニティが地域を作っていくということが必要であり、そのためには地域住民が地域を点検して、地域の宝を見つけ、どのように磨いていくのか、ようやくじっくり考える機会が到来したのだと話されています。地元学あるいは地域学ということの大切さを考える必要があり、私達も厚田区から色々学んでみたいと思っています。

大まかな流れをレジュメに書いてみましたが、開会のあいさつから閉会のあいさつまで勝手に提案をしております。全体を 2 時間半で計画しています。最初に開会のあいさつ、ワークショップへの提案で、挨拶を大橋副委員長にお願いしたいと思います。次に導入として、ワークショップの中で、どのようなことを話し合っていきたいかを私からお話をしたあと、報告を含めて、2 時間程度のワークショップをやってみようという内容です。最初に、アイスブレイクとして、頭をほぐして気軽に率直に議論できるような雰囲気を作るために、厚田の宝に触

れてみようという内容で書き出す作業をして、そこで出てきたものでグルーピングをしてはどうかと思います。参加者が何人になるかわかりませんが、1グループ6～7人が一番良い人数かと思います。できれば4つぐらいのグループに分けて、「厚田を石狩市の宝に、石狩市民の知っておきたい〇〇のこと」の、〇〇をみんなで探し出していこうと思っています。当初は厚田の課題と正面から向き合うつもりでしたので、前回の会議の中で色々なグループ分けをしたのですが、今回はそのグループ分けにこだわらないでやりたいと思っています。今回のグループ分けの案としては、例えば人、自然、産業、文化、生活などに分けましたが、実際にはそう都合よく分かれなないかもしれません。むしろ、産業や文化のグループに多く集まって、それぞれ1グループでは、議論する時間が足りないこともありえます。

今日、実施方針に大方のご支持が得られましたら、皆さんが厚田について魅力的だと思っていること、厚田について他の皆さんに知ってもらいたいと思うこと、あるいは自分自身が知りたいことなどを一つずつ付箋に書いていただき、黒板に貼ってグループ分けをしたいと思います。この作業はワークショップ当日も行いますので、今日出されたものと、当日厚田で出されたものとは全く違うかもしれません。

社会教育委員の皆様は当日参加していただけるかどうかも含めて、役割を決めさせていただければと思っています。私は、物とか行事が大事だと言う議論よりは、例えば、厚田の恋人の聖地や夕陽の丘が素晴らしいという切り口から、そこに人々を呼びこむ努力をしている人の動きがどのようになっているのか、他にも望来豚であれば、人々に食べてもらおう、美味しさを知ってもらおうためにどのような活動や発想があるのだろうか、といった議論が展開されればありがたいと思っています。そういった視点で、石狩市民として厚田の宝物をいくつか挙げながら議論できればと思っています。最終的にはまた報告書を作りたいと思っていますが、進め方も含めて、皆様からご意見を伺いたいと思います。

高橋委員：今日、意見を出す作業のあとにグループ分けをするのでしょうか。

木村委員長：今日は、グループ分けはしません。11月の当日も同様に付箋に意見を書いていたいて、それを基にグループに分かれます。大体このような意見が出されたので、当日もおおよそそのようなグループができそう、ということをイメージしたいと思います。皆さんご自身も、当日参加した時にどのようなグループに入りたいかを考えていただければと思います。また、少し厚田のことについて予習をして参加いただきたいと思いますので、事務局のほうで資料を探していただければと思います。

高橋委員：11月のグループ分けは、例えば望来豚グループや、ニシングループということになるのでしょうか。

木村委員長：おそらく、農産物、農林漁業というようなグループ分けになると思います。

高橋委員：農産物グループと漁業グループという感じでしょうか。

木村委員長：そのように二つには分かれたいのではないのでしょうか。農業漁業グループは一つになるのではないかと思います、当日になってみないとわかりません。そのような方向性でよろしいでしょうか。

高橋委員：いいと思います。

木村委員長：ありがとうございます。積極的で非常にありがたいです。

石井委員：出来たグループの中で、自分がどこに入りたいか考えればいいのですね。

木村委員長：そうです。およそ自分が入りたいと思うグループを考えていただければよいのですが、今日やったことが必ずしも当日同じとおりになるとは限りません。しかし、社会教育委員の方がバランスよく色々なグループに入れるようにしたいと思っております。場合によっては、私はバランスを見てどこにでも入りたいと思っています。

東次長：当日のワークショップの参加者ですが、社会教育委員の皆さんは最大で15人いらっしゃいますので、厚田の地元の方もだいたい同数以上という形のイメージでしょうか。

木村委員長：できれば倍ぐらい参加いただけると嬉しいですね。

東次長：すると、30人から40人くらいのイメージですね。今日これからやってみて、どのような形になるかということもありますが、当日やってみて、参加人数に合わせてそれぞれ4つか5つのグループに、6、7人ずつ入るような形を想定したいと思います。

木村委員長：5つぐらいのグループに分かれて、1グループあたり7人ぐらいが理想的ですね。それ以上になると話す時間が無くなってしまいます。

東次長：そして、社会教育委員の皆さんが地元の方と関わって話をしていくということですね。

木村委員長：むしろ大事なことは、地元の方達が大事だと思っていることや、他の人々に知ってもらいたいと考えていることを、私達が知ることです。そして、私達が普段、厚田をどのように見ていたのかということ、今度は厚田の人が気づく、そういう会話を、ワークショップの中で展開したいと考えています。その結果、厚田については、もっとこのように知ってもらうようにするべきだと考えることができるのではないのでしょうか。厚田の人たちにとっての課題を明らかにして、さらには私達が厚田をどうやって投影することができるかというこ

とも明らかにされていくのではないかと考えております。

平委員：日程について、20日、21日が候補となっていますが、両日共に行うのでしょうか。

木村委員長：どちらか1日と考えています。

平委員：21日の土曜日に行う際も遅い時間でしょうか。

木村委員長：そうです。地域協議会の佐藤会長のご都合もありますし、地域協議会の人たちが集まる時は、いつも遅い時間帯ですので、佐藤会長のご意見では、それ以外の時間だとなかなか集まらないのでということでした。土曜日に厚田で泊まって帰ってくるという提案もしたいのですが、なかなかそういうわけにもいきませんので。時間は、5時30分から8時まで、もしくは6時から8時30分でも何とか大丈夫でしょうか。

東次長：最大限、8時30分までに終われば大丈夫ですね。

木村委員長：私としては、本当は地域協議会の人たちが取り組んできたことを応援できるような話ができる講師を、遠くからでもお呼びして、基調講演のあとにパネルディスカッションを、という流れで考えたのですが、昼間の開催は難しいとのことでしたので、現在の提案にしました。委員の皆さんのご都合もありますので、2日間のうちでご都合の悪い日があればお聞かせください。

大黒委員：地域協議会の委員構成が、11月から変わるのです。新人が入ります。私も地域協議会のメンバーとして継続することになりましたので、よろしくお願いします。地域協議会の他に、どのような人たちを呼べばよいのでしょうか。

木村委員長：地域おこし協力隊の方や、行政の方もいるとありがたいと思います。

大黒委員：先日のパネルディスカッションで発表した、漁業の中井さんと農業の河合さんが話していることがすごく良かったですね。

木村委員長：二人があのような話をしていたことによって、厚田には希望があると感じますね。

大黒委員：厚田には7つの団体がありますので、代表の人に声をかけると結構集まるのではないかと思います。

木村委員長：日程を決めてから、団体にもお願いしようと思います。私は事前準備で何回か厚

田に行く予定です。今後、どこかに泊りがけで行って、夜に皆さんに集まっていただいて、朝まで討論するというようなことができるといいですね。

大黒委員：このような機会があると、厚田としてはとても良いと思います。また盛り上がるのではないのでしょうか。自分達でずっと活動が続けていまして、10年と言っていますが、実はその前からやっているのです。下地があるのです。そういった、日常生活の基盤から、地域の人々が中心となって取り組んでいるのです。そこを協働の精神でフォローしていかなければなりません。そしてさらに盛り上がっていったなと思います。そして、道の駅でまた盛り上がって欲しいです。特別指定の道の駅ということになりますから、いいことをしていれば、さらにいいことがあるのだと感じています。

木村委員長：ありがとうございます。内容についてはこのような感じでよろしいでしょうか。全体の進行役も考えなければいけませんが、社会教育委員は多彩で人材はいるので大丈夫だと思います。細かい所はまだ少し詰めていく必要があります。

それでは、これから皆さんに付箋に書く作業をしていただきます。5分ぐらいで、厚田の宝だと思うものを書いてください。望来豚やニシン、メロンなど、一枚にひとつ書いてください。重なっても構いません。同じものが繋がっても良いですので、書き出してください。

【書き出し作業の結果】

カテゴリ分けは以下のとおり

- ① 自然・風景
- ② 産業・産品
- ③ (伝統)文化
- ④ 施設
- ⑤ 教育・子育て



の人々に知ってもらいたいことがあるのではないのでしょうか。その点を呼びかけて、宣伝やご案内をしてはいかがでしょう。

高橋委員：子育て関係や学校があってもいいと思います。

木村委員長：あい風図書館もありますね。

木村委員長：これを参考にして、グループについて準備をしましょう。当日、私達と全く違う発想のものが出てくる可能性があります、それもまた新しい発見です。これらを参考に、皆さんはどこのグループに参加したいか考えておいてください。

それでは、本日皆さんに取り組んでいただいたことを基にして、当日、参加者にアイスブレイクをとおして考えを出していただき、グループを作って話し合いをしたいと思います。グループの数をどうするか、出た意見全てを取り上げるか、それともいくつか絞る形がいいのか、その点はもう少し検討したいと思います。全部挙げると、時間が足りないかもしれませんので、あわせて検討したいと思います。

大橋委員：結果を見て感じたのですが、特に道の駅もそうですが、厚田の人たちから見て地域の何を目玉にしたらよいのかという視点と、私達をはじめ、厚田区以外の人間から見て何を目玉にすると良いのかという視点と、この2つをかみ合わせるのが良いと思います。

木村委員長：本当は、厚田の人が予想していないものが出てくると良いですね。例えば地名だとか。でも厚田だけではなく浜益も、海辺はそういう土地が多いのでしょうか。

高橋委員：花畔もそうですね。

木村委員長：花畔もですが、生振も同じですね。

大黒委員：こういった手法は、2回位取り組んだことがあります。地域協議会でもやりました。

木村委員長：今回は、厚田の人だけではないというところが特徴ですね。

山田委員：なかなか難しい問題ですよ。厚田の色々な活動は、ある程度認識されていると思います。石狩市民に知ってもらいたいこととして、毎年 70 人ぐらい減っていく人口減少に、どのように歯止めをかけるのかということを、佐藤会長と話したことがあります。厚田の活動は素晴らしいのですが、現実には人口減少問題があるのですから、その問題に対しての対応と、我々旧石狩市民が、課題を知ることだけではなく、どのように支援できるのかということを考えていかなければならないと思います。浜益にも地域の宝もたくさんあるわけですから、今後、

発展性が必要なのだと思います。今度、市民カレッジで「新幹線の光と影」という講座を考えています。国は、北海道でのＪＲは函館本線だけでいいと言っています。函館から旭川までは必要だが、過疎地にＪＲはいらないと言うことでしょう。既に過疎地切り捨ての方針が明確にされております。大企業が儲かればいいと考えているのでしょうか。貿易で輸出額が上がっても、輸出できるようなものを生産するのは大企業です。やはり我々は、過疎地の問題など、行政に働きかける必要があるのではと思います。

木村委員長：私としては、石狩はかつて札幌のベッドタウンでしたが、高齢化・過疎化が進んでいる厚田・浜益と合併して大変になったと言うよりも、むしろ希望のある地域と一緒に進むことになったという捉え方をしています。

山田委員：そうですね。私も賛成です。

木村委員長：そのため、私はワークショップ案のタイトルを今回のものにしましたが、将来の見通しとしては前向きな希望があると思うのです。厚田で農業や漁業の人達が頑張っていて、若い人や魅力的な人が大勢いて、その魅力でもっと若い人が集まって定着するような人气が促進していけば、ありえる話だと思います。石狩も、花川の同時期に造成された団地など、高齢化がかなり急速に進んでいますから。

山田委員：石狩市の70%が森林ですから、もっとここに働きかける人は居ないのだろうかと考えています。本当に漁業と農業だけで良いのか。第一次産業として、これほど森がある地域はそうある訳ではないのですから、やはり発想の転換をしていかないと、過疎地はなかなか回復しないのではと思います。

相馬委員：石狩本町と浜益区、厚田区とありますが、人口では浜益区が1,400人位、厚田区も2,000人位で、浜益区の人口が少ないことははっきりしています。地域づくりという点で見ると、地域協議会の方々もいて、厚田こだわり隊の隊員のような人も先頭に立ってやっています。しかし、企業関係では、農協の職員も協働で参加してはどうかと思うのです。行政関係でも、支所の職員の皆さんが同じテーブルについて議論して、行政の立場で理解できなければだめだと思うのです。せっかく良い取り組みをしているのに、支所長から声かけをしていただいて、職員にも参加してもらくらのことをしなければ、ただ実践で活動をしているだけの集まりでは、やはり限界があって前に進まないのです。その人の立場ごとに、例えば市職員であれば、どのような問題があるのかという話を一緒に聞いて、その後、自分たちがどのようなことをすべきか、自ずと答えが出てくるという状況が必要だと思うのです。そのようなことをしていかなければ、いくら良い取り組みをしても前に進まないと思うのです。ましてや人口が少ないところですから、人集めなどの工夫していかなければなりません。農協に入った職員や市の職員などの担い手が、もっと表に出て区民と色々な話をしていく必要があるのではないでしょう

か。いくら住民が騒いでも、行政が理解してくれなければ、まちづくりはできないと思います。

木村委員長：ワークショップの開催時間が夜になりそうですので、行政職員も参加しやすいのではないのでしょうか。ちらしなどを作って、農協や支所などにも宣伝しましょう。

相馬委員：厳しい言い方になりますが、各市町村の首長が、何かやりたいことがあっても、現場の職員が理解していないとできません。直接の職場の職員と住民がもっと一緒に議論して、それから行動するという形にしていかなければ、町は良くならないと思うのです。

木村委員長：なるべく、今の相馬委員のご意見をふまえて考えたいと思います。8月のパネルディスカッションの際も、行政とヒアリングなどをして準備をしました。例えば、農協の方達にもヒアリングをすることもありえますし、準備と呼びかけを兼ねて動いていきたいと思います。皆さんありがとうございました。私としては、楽しい内容にしたいと思いますので、準備を進めながら、ご案内やお知らせをしながら進めていきたいと思います。

それでは次に、次第のその他に入ります。それでは引き続き、事務局から平成 27 年度フォーラム石狩についてご説明いただきます。

西山社会教育主事：平成 27 年度フォーラム石狩についてご説明します。この事業は、石狩管内教育委員会協議会という組織が主催している事業の一つです。今年は千歳市で開催され、「子供がつなぐ地域活動」というテーマで実施されます。実践発表は高校・大学生のボランティアで、実際に学生が通学合宿に関わっている事例などの紹介が予定されております。例年とは少し変わった切り口ですので、10 月 31 日の土曜日になりますが、ご参加をご希望の方がいらっしゃいましたら事務局までお声掛けください。

もう一点、同じく研修関係になりますが、毎年、北海道社会教育研究大会という事業が開催されております。基本的には委員長、副委員長のご参加となるのですが、木村委員長のご都合がつかないため、大橋副委員長の他に、どなたかもう一名を考えておりました。そこで、去年は浜益区から相馬委員にご参加いただいた経緯がありますので、今年は厚田区から大黒委員にご参加いただきたいと考えておまして、皆さんにご了承いただければと思いますが、いかがでしょうか。

一同：異議なし。

西山社会教育主事：ありがとうございます。事務局からは以上です。

木村委員長：ありがとうございました。私事ですが、私も今年いっぱい北海道大学を退官することになると思いますが、私の研究室と北海道開拓の村が、毎年、博物館ボランティアの集いという事業を開催しておまして、今回で 12 回目になります。私が基調講演をして、「地元

の地域学のすすめ」というテーマで北海道教育大学の廣瀬教授に分科会を担当してもらいます。ちょうど、11月のワークショップとも内容が関連しているので、もしよろしければご参加いただければと思います。

例年、全国から150名ぐらい集まっており、去年は道外からも50人くらいの参加がありました。昔は、博物館・美術館ボランティアの集いが全国各地で開かれておりましたが、だんだん少なくなっていました。ボランティアの高齢化が進んでいることも理由のひとつにあるかと思います。北海道大学と開拓の村が共催しているこの事業は、全国的にもそれなりに大規模な事業になっています。それでは、本日の会議はこれで終わります。ありがとうございました。

議事録は上記のとおりであることを認めます。

平成27年11月2日

石狩市社会教育委員の会議 委員長 木村 純